

第4章 .

新“南部郷”建設への期待と 合併にかかる課題

合併に際しては両町村の歴史的な結びつきを尊重しつつ、2ヶ町村を一体の地域としてとらえた場合の新たな価値観にもとづく地域づくりが求められます。両町村が個別に取り組んできた地域づくりの路線や今後予定している事業の内容をさらに発展させ地域形成を図る必要があります。

合併した場合の新町の将来像や具体的施策についての本格協議は、設置予定の法定合併協議会においてされることとなりますが、ここでは、社会経済情勢や当地域の現状をふまえた上で、新町建設に当たり課題となる事項や将来像を検討するに際して留意すべき視点をまとめておくこととします。

1) 『地球の恵み』を活かした産業の振興

『世界一の梅の郷』南部郷の創成にむけて

温暖な気候に恵まれなだらかな山なみに囲まれた当地域は、梅の栽培に適した風土を持ち、名実ともに日本一の梅の里として長く君臨しています。梅産業がここまで発展してきたのも、古くは南部高校による最高品種の南高梅の商品開発から始まり、その後も農業者、農協、加工業者、行政ががっちりスクラムを組みながら品質の向上に取り組み栽培から加工、販売まで一貫して産地形成を続けてきた賜でもあります。

前年度までの田辺広域 10ヶ市町村の枠組みを離れ、南部町、南部川村の2町村による合併協議を選択した大きな理由が、この『南高梅のブランドをまもり育てること』であり、両町合併の大きな意義でもあります。南部町と南部川村が合併すると、栽培面積および生産量の双方で田辺市を抜き文字通り日本一の梅の生産地となります。

しかしながら、近年の梅枯れ問題への対応や中国産梅との市場競争も激化しており、当地域の梅産業を取り巻く環境はますます厳しくなることも事実です。

梅産業に関しては、産業界は既に一体的な取り組みがされているものの、行政的な支援については違う自治体であったがために別個に取り組みざるを得なかったわけですが、両町村が合併することにより南部町・南部川村の英知を結集し一体的な取り組みにより梅産業の振興施策を進めることが期待されます。

合併による産業振興体制の強化により、今後も南高梅の品質の向上やブランドの強化、需要の拡大をはかり、日本一ならぬ『世界一の梅の郷』南部郷をつくりあげていくことが大きな課題です。

紀州備長炭のメッカとしての『炭文化』発信基地へ

この地域一帯に備長炭の原木であるウバメガシが群生していたことから備長炭の生産は昔から行われていましたが、南部川村が行政として取り組むようになってから知名度が上がり、日本一の紀州備長炭生産の地としてこちらも確たるブランドを有しています。

しかしながら、生産者の高齢化や後継者の不在といった問題を抱えており、担い手の育成により備長炭産業を維持していくのが大きな課題です。

加えて、最近では燃料としてばかりでなく、水や空気の浄化や健康グッズ、インテリアとして備長炭の新しい活用の仕方が次々と見いだされており、備長炭を文化的に価値のある資源として再評価し、こうした側面からの商品力強化やPRなどの振興策を合わせて行うことが必要です。

持続的な漁場環境の整備

本州一美しい海と風光明媚な海岸線を持ち豊かな海産物の宝庫でもある南部の海は貴重な地域資源です。また、一本釣りや延縄漁などの特色ある漁業が行われています。

「美味しいさかなが捕れる・食べられる」といった漁村としての強みを活かすためにも継続的な漁場環境の整備が必要です。

2) 健康・福祉の増進による住民生活の充実

健康・長寿の風土を持つ南部郷

住民のみなさんが「この町に生まれ育ってよかった」「たいへん幸せである」と実感することができる合併でなければいけません。合併後のまちづくりの目標としてまず第一にめざすべきは住民生活の充実・向上であることは言うまでもありません。

和歌山県100の指標などの統計データにも現れているように、南部地域は平均寿命が長く出生率も比較的高く医療費も県平均よりは少ない地域であり、長生きをし、家族を大切に作る風土があるところです。

加えて、農業を主体とした産業基盤を持ち温暖な気候にも恵まれ、農業を通じ高齢者も元気に働く環境を有し「豊かな自然に囲まれ人が健康的に生きていくみなもと」がある人生にリタイアのない地域であり、こうした風土をうまく活用した健康・福祉施策を展開することが必要です。

老いても『健康維持』を前面に出した福祉施策の推進

しかしながら、財政状況が今後ともますます厳しさが増す中で、高齢化の進展により増大する医療・福祉需要をすべて行政サイドで賄うことは不可能です。

本格的な高齢社会においては、住民ができるだけ福祉・医療行政のお世話にならないよう日頃から体に留意しいつまでも健康で長生きが出来ればひいては福祉にかかる歳出を軽減することになります。このように、住民の健康増進に資するような（健康を保てば医療費が不要とのことから『ぴんぴん・ころりん』施策ともいう）施策の推進をはかり、住民が健康的に充実感を持って暮らせる町を実現するとともに、医療費の抑制により健全な行政運営を実現する事が必要です。

3) 豊かな自然環境の保全と『快適コンパクトタウン南部郷』創成に向けて

都市と農村の共存によるまちづくり

南部町、南部川村を一体の地域として捉えた場合に、当地域の持つ優位性として、「豊かな自然環境と適度な都市的アメニティが両立したまちである」ということがいえます。一流の山と海を擁した自然環境にすぐ触れることができ、同時に買い物や食事、身近なアミューズメントなどの日常的な都市型サービスにもいつでも接することができる、という充実したライフスタイルを実践できる地域性を有しています。

南部町、南部川村が合併することにより、南部町は南部川村にはない数の商店や医療機関を持っており、南部川村は豊かな自然・森林や農村環境を擁するというように、街の機能と自然環境を双方で共有することにより相互にメリットが期待できます。

これが都市と農村で構成された120km²のエリアにコンパクトにおさまり、1万数千人

の人が住むコミュニティを重視したまちづくりを進めることが必要であるとともに、行政面でも、農林漁業や商工、市街地環境整備など各分野の施策をこの地域が一体のものとしてバランスをとりつつ実施していくことが期待されます。



	南部町中心市街地	岩代
飲食物品	74	10
日用品・雑貨	17	0
衣服・身回品	22	0
その他		
たばこ	4	0
電気（ミシン・農機含む）	12	0
家具（インテリア・物置含む）	3	0
薬局・薬品	6	1
釣具	4	0
仏具	3	0
造園・生花・錦鯉	5	0
石・木材・炭・ブロック	8	0
本・文具	3	0
写真・スタジオ	2	0
葬祭・セレモニー	2	0
ガス	2	0
おもちゃ・人形	2	0
スポーツ用品	1	0
建具屋	1	0
その他（進物等）	1	1
飲食店	36	3
サービス店		
ガソリンスタンド（石油・燃料含む）	7	0
自動車・自転車修理（販売含む）	7	2
理容・美容室	14	1
電気工事	2	0
不動産	2	0
ダスキン	1	0
クリーニング	2	0
新聞	1	0
自動車教習所・ダイビング	2	0
渡船	1	0
医療機関	11	0
教育施設	6	2
銀行	2	0
交番・郵便局	2	1
旅館	3	3
大型店（スーパー）	2	0
合計	273	24

図 4-1 南部町内の商店等（「南部街中絵地図」より作成）

4) 21世紀の行政体制の確立と行政運営の効率化

住民一人一人の顔が見える行政運営が期待される

南部町では住民意見として南部川村との合併を希望する声が多く、南部川村も懇談会等を通じ小さな規模の合併を望む声が大半を占めるなど、合併の枠組みに関し両町村とも隣接の小規模な合併を望む声が大半を占めています。

小さな合併をめざす上でもう一つ留意すべき重要な視点は「合併後も住民一人一人の顔が見える行政運営を」ということです。2町村で合併するという選択は、広域合併のメリットを最大限に生かすような広域行政分野に力を入れるというよりは、住民生活の視点に立脚したきめの細かい行政運営を住民は期待しているということであり、こうした観点からの新町の施策を検討することが必要です。

継続的な行財政改革と合理的な行政運営の推進

合併により企画・総務などの管理部門が統合・効率化され、多様化・高度化する行政ニーズに対応できるといわれていますが、財政的に厳しい状況が続く中、きめ細かな住民サービスを今後とも維持・充実していくための行政体制の確立が期待されます。

両町村の行政職員の現状を評価するためにモデル都市（類似団体）と比較をすると、両町村の合計が既に類似団体を下回っている部門もあります。

類似団体指標

団体名	人口	行政面積	人口密度	産業別人口比率		
				第一次	第二次	第三次
兵庫県三原町	16,823人	58.4km ²	288.3人/km ²	35.5%	20.5%	44.0%
福岡県立花町	12,952人	86.6km ²	149.5人/km ²	39.1%	26.2%	34.7%
福岡県黒木町	15,184人	135.5km ²	112.1人/km ²	37.0%	25.0%	38.0%
南部町・南部川村計	15,069人	120.3km ²	125.3人/km ²	41.4%	24.7%	33.9%

町村名等		南部町	南部川村	2町村合計	類似団体平均
一般行政	議会	3	2	5	2.4
	総務	14	12	26	39.7
	税務	5	2	7	11.1
	民生	8	11	19	14.6
	衛生	6	5	11	14.9
	農林水産	11	20	31	23.6
	商工	1	0	1	2.7
	土木	12	9	21	14.4
	一般行政計	60	61	121	123.4
特別行政	教育	17	16	33	33.6
	消防	-	-	-	3.3
	特別行政計	17	16	33	36.9
公営企業等	病院	0	0	0	-
	水道	4	3	7	-
	下水道	5	2	7	-
	保育所	7	15	22	38.6
	公営企業等会計計	16	20	36	-
総合計		93	97	190	-

表 4-1 参考とした類似団体と職員数の比較

当地域の場合日高郡の一部事務組合に委ねている行政事務もあり2町村の行政職員と類似団体の職員の比較では言い切れない面もありますが、ある意味では既に効率的な行政運営を実践している分野もあるといえます。よって、合併により今まで以上に必要な分野に必要な人材を振り向け、多様化するニーズに対応していくことが必要です。

参考) これまでのまちづくり路線(広域圏計画、総合計画より)

【南部川村】

キャッチフレーズ ~ 「梅と健康の村 南部川」「日本一の梅の里」

南部川村は面積 94.18 k m²、人口 6,600 人余で、梅づくりの村である。

『梅と健康の村南部川村』を基本方向としており、村の特性を最大限に生かし活性化を図るため、農業、林業等、既存産業の振興に努め、中でも特産物の「梅」を中心とした、梅産業の育成振興を基本に、広域交通基盤など社会基盤整備等の好転しつつある地域環境条件を適切に活用しながら、梅の香りのする豊かな自然のもと、すべての住民が、いきいきとして生産にそして健康づくりに励む村、調和のとれた活力に満ちた村をめざしている。

【南部町】

キャッチフレーズ ~ 「豊で住みたくなる活力あるまち」

南部町は面積 26.08 k m²、人口 8,100 人余で、梅農業と梅の食品加工産業、漁業が中心産業の町である。

近年の社会情勢の影響もあって町外への若者の流出による町人口の減少傾向もあるが、21 世紀初頭での近畿自動車道紀勢線の開通など広域交通基盤の整備にも弾みがついていることなどプラス材料があり、町づくりの主役である住民個人の創造的な活動を支援し、すべての住民が健康で豊かに生きがいをもって暮らすための基盤を着実に整備することを重要な基本とし、『豊かで住みたくなる活力ある町づくり』を基本に、都市基盤の整備、生活環境の整備、教育・文化の充実、保健・福祉の充実、地域産業の振興を推進している。

**南部町・南部川村の合併に関する調査
報告書**

平成 14 年 10 月

発行 南部町・南部川村合併調査研究会
〒645-0002
和歌山県日高郡南部町大字芝 265-1
TEL 0739-84-3180（代表）
